

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター 准教授
氏名 Name	蔦 清行
専門分野 Academic Field	日本文献学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	古代・中世の言語と文化
<p>本年度は、従来から行ってきた研究の成果を論文等で発表するとともに、新たな分野にも挑戦した。</p> <p>まず、科学研究費補助金（平成 28 年度 若手研究(B)「中世抄物の註釈の展開―『山谷幻雲抄』『黄氏口義』の比較による―」）を得て研究を行った。この研究は、建仁寺両足院に残された黄庭堅の抄物「山谷幻雲抄」について、同じく林宗二が関わって編纂された「黄氏口義」と比較し、その関係を明らかにする。従来言語資料としてしか見られてこなかった感の強い抄物を、注釈史あるいは文化史の資料として活用する、そういう考え方の基礎を作っていこうとする研究である。研究成果としては、3月に論文「中世文化人たちの蘇東坡と黄山谷」（『日本語・日本文化』第 44 号）を発表した。蘇東坡・黄山谷はいずれも中国宋代の詩人であるが、中世日本の禅僧や公家の日記などに見られる彼らの詩文の引用などを調査して、中世の知識人たちがそれらをどのように楽しんでいたのか、ということ考えたものである。</p> <p>このほかの研究成果物については時系列順に報告する。</p> <p>6月、これまで授業のなかで紹介してきた伝統的な日本文化にみられるさまざまな現象について、著書『中級日本語で読める日本のことばと文化』としてまとめて出版した。</p> <p>9月、現代の日本語教育の文法体系がどのように成立してきたかについて、主に寺村秀夫の文法論との比較から考察し、「寺村秀夫と『みんなの日本語』の文法用語 ―活用の場合―」（2016 年日本語教育国際研究大会口頭発表）として発表した。またこの発表に基づいて、研究論文「日本語教育の文法</p>	

体系と寺村秀夫：活用の場合」（『日本語・日本文化研究』第26号）を執筆した。

11月、『蒙求和歌』の恋部の説話について、原典からの変容について、主に用いられている表現・単語の面から考察し、口頭発表「蒙求和歌の恋部」（第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム）として発表した。

このほか、国文学研究資料館の『中世古今集注』の研究会に定期的に参加しているほか、科学研究費補助金(基盤研究(B))「中世近世国文学における中国文学受容の研究—和漢聯句と抄物を中心として—」の研究分担者として、複数回の研究発表（輪読）を行い、1月7日には京都大学で「抄物講習会」の講師をつとめた（内容は建仁寺両足院蔵『黄氏口義』について）。公表されている成果物はないが、併せて報告しておく。